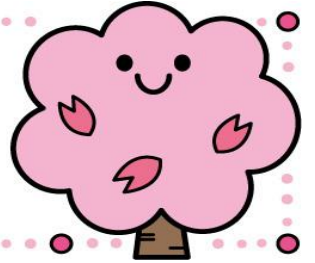


# さざなみ



社会福祉法人親和会  
さざなみ学園  
Tel (0853) 43-2252  
Fax (0853) 43-2256  
e-mail:sazanami@rhythm.ocn.ne.jp

入学、進級された皆さま  
おめでとうございます



## 園長より

今年度も  
よろしくお願いします。



元号が変わり、祝賀ムードに包まれていた昨年とは一変し、今年の春は、社会全体が自粛モードとなり、見えない敵（コロナ）との戦いが続いています。

施設には、感染を避けるために言われている3密（密閉、密集、密接）によく似た生活環境も多く、一旦感染者が発生すると千葉県や広島県の障がい者施設で見られたような一気に感染が拡大する要因を抱えています。

当園では、利用者、スタッフの健康と生命を守ること、施設内にコロナを持ち込まないことを大前提に、検温、マスクの着用、換気、手洗い、消毒、不要不急の外出の自粛、入所と通所の活動場所を分ける等日々の感染防止に努めています。

利用者、保護者の皆様には、面会や帰宅の制限、通所の自粛や休業等、ご迷惑をおかけしておりますが、ご理解とご協力頂きますようよろしくお願いいたします。

コロナ禍の中でも春は必ず来ます。3月には、入所の高等部卒業生5名と育成部の2名が学園を卒園しました。学園でのお別れ会は中止となり、少し寂しいところもありましたが、それぞれの退所の際には、例年を上回るたくさんの方に盛大に見送られての旅立ちでした。4月には、小学校へ1名、高等部へ4名が入学しました。入学式の縮小や臨時休業等いつもと違う学校生活のスタートですが、コロナに負けず子供達は、張り切って通っています。

新しい時代を迎えるごとに、常識や考え方をアップデートすることで困難に対応してきました。今後も未来に向かってワンチームで取り組んでいきたいと思っております。

園長 片岡 久

# 医務より

## 感染症予防について

～洗い残しをなくしましょう～



暖かな日がさす、心地良い季節となりました。例年では感染症の罹患者数も少なくなる時期となりますが、今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い適切な対策を続けていく必要があります。

感染症予防と対策として、ウイルスが部屋の中を長時間浮遊する環境をつくらぬための換気・咳エチケットとマスクの着用・手洗い・手指消毒・うがいがあります。どのようなウイルス感染症が流行しても予防対策は大きくは変わらず、基本の手技を適切に繰り返すことが大切です。石鹸による日常の手洗いでも、正しい手洗い方法を行えば菌を減らす事が出来ます。しかし実際は短い時間しか行われておらず、見た目には汚れないとどうしてもおろそかになりがちです。そこで、特にウイルス流行の時期は「2回手洗い」をお勧めします。「2回手洗い」を実施することでウイルスの除去効果があるというデータがあります。その後のアルコールによる手指消毒も、手洗いと同じ手順でしっかりとすり込みましょう。

### 基本の手洗い手順



【保健医療スタッフ 佐藤 麻理】

# 厨房より

## みんなだいすき！ 食事について



さざなみ学園では、毎月子どもたちへ希望メニューを聞いています。その希望の中からいくつかのメニューを取り入れています。希望のほとんどが「肉」です。からあげ・ハンバーグ・ステーキ・焼肉・かつ丼・カツカレー・すき焼き丼・手羽先のから揚げなどが希望メニューによく書かれています。他にもラーメンやうどんなどの麺類も人気があります。最近では、希望で担々麺をメニューに取り入れました。高校生からは好評で「もっと辛くしてほしい。」という要望もありましたが、辛いものが苦手な小学生たちからの反応はいまいち…。別にしょうゆラーメンを提供することになりました。野菜や魚は苦手な子どもたちが多いです。苦手な物も少しずつ食べられるよう、調理法や味付けを工夫し、これからも子どもたちに喜んでもらえる、楽しみになる食事を提供していきたいと思っています。



サイコロステーキ

手羽先のからあげ



すき焼き丼



チーズハンバーグ



チキンカツカレー

【主任栄養管理スタッフ 桐原佳子】



13名の児童とともに今年度がスタートしました。新型コロナウイルス感染予防のために、保護者の皆さまには多くのご協力を頂き、大変ありがとうございました。

さて、「外出自粛」という言葉が響き渡る今日です。私達の気持ちや生活に大きな変化をもたらす事ですね。今回は「外出する」「お家で過ごす」というテーマを、作業療法の窓からそっと覗いてみたいと思います。

まず、「外出をする」ということは、生活をしていく中で欠くことのできない大きな行為です。仕事をする、買い物に行く、公園へ遊びに行く、旅行やショッピングに出かける、学校へ行く、病院へ受診に行く等の様々な場面があります。そして、外出先には目的が沢山あります。私達はその目的を果たすことで、意識的あるいは無意識的に役割を遂行し、自己実現へとつなげています。家庭と社会の枠組みを行き来することで、集団や社会に属する楽しさや嬉しさも実感します。さらに、外出するためにおしゃれをしたり、鞆に荷物を準備したり、友だちと約束をしたりと、わくわく感も加わります。

今回、「お家で過ごす」ことで社会との繋がりの体験が、家庭にある物・環境でできないかを考えてみました。

遊びの場面から……布団や毛布に包まれる・圧迫される → 全身を感じることができる

お風呂場で泡遊び → お風呂が特別なスキンシップの時間になる

小豆遊びや粘土遊びをする → 手からの感触は沢山の刺激が！

外でシャボン玉やボール → 口を使うことが言葉や嚙下の練習になる

新聞紙や広告で遊ぶ → 新聞紙には発見がたくさん！



体と体のふれあい遊びが、ボディイメージやスキンシップの安心感へとつながります。この時期なら、スポンジを使って手を洗うこともお勧めです。触覚を使った遊びは、自分以外の人間と、社会の中で適切な関係を結んでいく力（社会性）に関係しています。人と自分との境界線を強く意識できる遊びです。

お手伝いの場面から……簡単なクッキング（火や包丁を使わないおにぎりや、手でちぎるサラダ等）

掃除（玄関や部屋、窓）

洗濯物たたみや洗濯干し

食器洗い

机拭き



家事を分担したり共同作業をすることで、社会生活技能の練習をしたり役割を果たすことができます。また、家族に褒めてもらうことが嬉しさや自尊心へつながり、自立への意識が高まります。

社会とのつながり……テレビやDVDを見てゆっくりする

手紙を書く

近所を散歩する



お家で過ごす中で、（こんな時にはどうしたらいいのかな）、（こんなことに困っているのだけれど）、と感じることも多々あるかと思います。過ごし方に正解はありません。子どもとお父さんお母さんが無理のない過ごし方で、心地よい生活スタイルで過ごしてもらえたらいいなと思います。子どもの次の育ちへつながる方法を一緒に考え、寄り添う支援ができれば良いと、ぽこぽこのスタッフは考えています。今年度もよろしくお祈りします。

【療育スタッフ（OT） 荒木 裕子】



# 新規スタッフ紹介



4月より支援課でお世話になっています。  
以前も子どもたちと接する仕事をしていました。子どもたちの方から「なんか見た事ある。」「僕と一緒にクラスの誰々さん知ってるでしょ」と話しかけてくれ、とても嬉しく思います。これから宜しくお願いします。

支援課

支援スタッフ 青木 翔也



4月より支援課でお世話になっております。まだまだ未熟ではありますが、お子さん一人一人との関わり合いを大切にしながら、精いっぱい頑張っていきたいと思っております。これからよろしくお願ひ致します。

支援課

支援スタッフ 清水 久美香



毎日、子どもたちの可愛い笑顔に癒されています♪  
慣れないことばかりでご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、子どもたちに負けないくらい、元気いっぱいがんばります！

児童発達支援センター ほこほこ

療育スタッフ 佐藤 真衣



4月よりウィッシュでお世話になっています、屋原宏美（やばらひろみ）と申します。以前は、学校現場で働いておりました。今までの経験を大切にしつつ、新しいことを取り入れながら、一つ一つ丁寧に取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

ウィッシュ

相談スタッフ 屋原 宏美

新しく、4名の楽しいスタッフが加わりました！  
今年度も笑顔いっぱい元気にがんばります！



## おしらせ

★（有）ダスカジャパンクアウテモック様より、チョコレートをいただきました。



★保護者の方からお菓子やジュースをいただきました。



ありがとうございました！

まだまだ気の抜けないコロナウイルスで「お家時間」が増えている今、みなさんはお家でいかがお過ごしでしょうか。最近ではDIYや園芸を始められる方が増えているみたいです。この機会に新たな趣味を発見できるかもしれませんね！

さて、今回は作業療法士より、子どもと過ごす「お家時間」についての記事を書かせていただきました！ずっと家にいるのは気が滅入ってしまいますが、少しでも「お家時間」が充実したものになるヒントになるといいなと思います。

今後も感染予防をしながら、元気に過ごしましょう☆

〈広報委員 江角、清水、水師〉